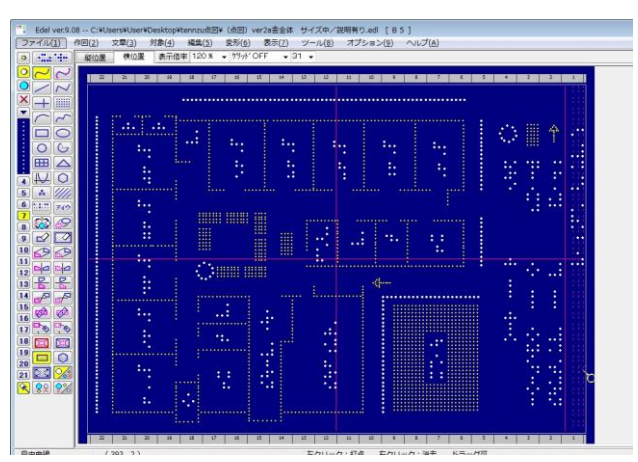
教材・支援機器活用実践事例（特別支援学校版）

	実践名（実践年度）	点図・点地図を利用した触察認知と環境把握（H30年度～）
参加する授業について	教科名等 （該当する教科名等を選択。当てはまらない場合はその他を選択し、次の単元・題材名の欄に記入。）	□国語　□社会　□算数/数学　□理科　□生活　□音楽　□図画工作/美術 □家庭/技術・家庭　□体育/保健体育　□道徳　□外国語/外国語活動 □総合的な学習の時間　□特別活動　□自立活動　□各教科等を合わせた指導 □その他の教科　☑その他（　寄宿舎教育　）
	単元・題材名	点図・点地図を利用した触察認知と環境把握
	授業の目標	
	観点別学習状況の評価の観点 （教科の特性により設定した観点がある場合は「その他」を選択し記載。）	☑「知識・理解」 ☑「技能」 ☑「思考・判断・表現」 ☑「関心・意欲・態度」 □その他（　）
	自立活動の要素	□健康の保持　☑心理的な安定　□人間関係の形成　☑環境の把握　□身体の動き　□コミュニケーション
学習（集団）の実態 子どもの実態	学部・学年・人数	□通常の学級　□通級による指導　□特別支援学級　☑特別支援学校 □就学前　□小学生　□中学生　□高校生以降 ☑特定されない 寄宿舎入舎生（10代～50代）
	対象の障害	☑視覚障害　□聴覚障害　□知的障害　□肢体不自由　□病弱・身体虚弱　□言語障害　□自閉症　□情緒障害　□LD（学習障害）　□ADHD（注意欠陥/多動性障害）□その他
	子どもの課題（特性・ニーズ）	□聞く　□読む　☑見る　□話す　□書く　□運動と姿勢　□計算する　□推論する　☑日常生活活動　□社会性・コミュニケーション　□不注意　□多動性－衝動性　□覚える・理解する　□時間的・空間的・人的交流の制約　□その他 ・初めて入舎する寄宿舎生にとって舎生活や行事などへの参加は、全体像の把握が難しく不安感が見られる。環境の把握に時間を有することで行動の主体性や積極性が低い。 ・体験入舎や行事の際、環境（レイアウト）を把握したり、メンタルマップを創生するための時間を充分に確保することが難しい。
ICT活用について	使用した支援機器・教材の名称 （使用した支援機器・教材の名称を記載。なお、特定の製品に特化した実践の場合は製品名を記載。）	・点字・点図編集ソフト ・点図プリンター
	活用のねらい（概要）	A コミュニケーション支援（□A1意思伝達支援　□A2遠隔コミュニケーション支援） B 活動支援（☑B1情報入手支援　□B2機器操作支援　□B3時間支援） C 学習支援（□C1教科学習支援　□C2認知発達支援　□C3社会生活支援） 視覚障害者にとって環境把握の手段の1つに触察認知がある。実際に散策しながら具体物に触れ、距離を測り、認知地図（メンタルマップ）を描くことは可能だが何度も繰り返し散策を行う必要があり時間がかかり負担も大きく周辺情報の漏れを伴うことも少なくない。認知地図の創生の際、環境の情報を集約した点地図を利用した触察認知は有効な支援ツールとなりうる。 寄宿舎生にとっても点地図の提供により、①安心して館内や寄宿舎周辺を歩くこができる。②全体像を把握でき、主体的な行動が増え行事等の活動がより楽しめる。③非常変災時、安全な避難ができる。などの手立てとして生活支援ツールの作成にICTの活用を行った。
	活用方法	①寄宿舎館内をエリア毎に分けて点地図を作成し、それぞれの場面・目的で活用。 例：全体図、食堂、生活実習室、男子浴室、男子トイレ、女子浴室、女子トイレ、周辺図など ②初入舎や体験入舎といった初めて館内を訪れる生徒の環境把握に活用。 ③行事での机や物の配置、座席の並びなど情報提供（保証）に活用。
効果・評価	ICTを活用した授業での子どもの様子や変容および授業の評価	・全体像がつかみやすくなった事で、環境把握のための歩行・散策が安心して行え、時間も短縮されている様子がみられた。 ・メンタルマップが描きやすくなったことと、メンタルマップの再確認が点地図を使うことで、自分の部屋ででき便利だった（舎生談） ・座席配置の点図を利用する事で、他の舎生との会話や活動を積極的に楽しむ様子が見られた。また、事前に点図を手にすることで当日までの話しのネタにするなど舎生同士のコミュニケーションの広がりがあった。 ・点図の理解には、視覚障害者の触察能力も重要で有り全ての舎生が利用できるわけでは無い。
資料	図・写真・表等 （生徒の写真は個人情報公開の確認を取っているものとする。）